

NATURAL VOICE

エール学園支部

あらたな
ステージを求めて

日本語教育 20 年・・・あらたなステージを求めて

このところ暗～い世相の日本。昨年、選ばれた漢字は「偽」でしたね。流行した言葉も「格差社会」「セレブ」「少子化」「おひとりさま」「品格」などなど。マスコミでもわたしたちの身近でも、人間の生き方と社会の諸価値について問い直すような話題が多かったように思います。この日本社会への疑問と未来への不安を抱く人が増えてきたのでしょうか。その論議はさておき、2008 年はいったいどんな年になるのでしょうか。年明け早々、またも世界の金融システム崩壊とか新たな恐慌の到来などと、新春らしからぬ不吉な予測が飛び交っています。これには日本語教育の現場も少なからぬ影響は出てくるかもしれません。しかし、こうも考えられるのではないのでしょうか。そもそもこうした時代の激しい波動の中で産声をあげたのが、日本語教育、日本語教師という仕事でした。80 年代後半、世界の激しい政治経済変動に伴い、渡日する外国人労働者・留学生が急増し、日本語教育機関も続々生まれました。同様に教育分野以外でも、外国人の生活・労働・医療・法律・人権保護などが求められ、多くの個人・団体・組織がかねらわ日本社会の市民・友人として受け入れようと奔走してきました。そうした努力が実を結び、いまでは、政府に重要な提言のできる力量をそなえた NPO も誕生しています。変容する日本社会の中で、こうした諸団体の動きは外国人に対する認識を変え、新たな人間的な価値観と社会のありようを示してきたといえるでしょう。

問題の認識はすべて光のあて方次第だといえないでしょうか。人と人が信頼で結ばれ、思いのあるひとに共鳴して動く。心安らぐ社会と人間関係づくりが今、求められているなら、日本語教育もそれにこたえる力は十分あるだろうと思います。この時代に求められている仕事として新しい視点で新たなステージへ。長期的なビジョンをみなさんと構想していきたいものです。

エール学園支部 副支部長 新美益子

EWA 大阪教育合同労組 本部 06・4793・0633 FAX0644 <http://www.ewaosaka.org>

大阪府中央区北浜東 1 - 17 日本ワードデータビル 8F E-mail: info@ewaosaka.org

団体交渉・この間のまとめ 07年12月25日(火)

出席： 学園側 2名 崎村本部長 橋本さん(総務)

組合側 7名 本部1名 山下執行委員長 エール支部 6名

この間の交渉は支部との話し合いも入れ、「年次有給休暇」の扱いを中心に話し合いました。

	学園側公式回答 組合側要求項目	要求への回答説明・意見 要求・発言など
非常勤 講師 年次 有給 休暇	<p>【1】 【一般非常勤講師・年次有給休暇への賃金支払い方法】 有給休暇取得日の支給額の計算方法は有給取得日までの3ヵ月間の総労働日数で 給与を割った1日あたりの平均給与を支給。</p> <p>【参考： ある講師の場合、通常支給の約60%となった】 理由：時間の拘束、就業形態、支払い方が違う。</p>	<p>非常勤も職員・専任と同様、有給休暇取得日の賃金を100%支給すべきだ。 本部執行委員長：、年次有給休暇が専任講師(100%支給)と異なるのは問題。 就業規則は現在職員を対象としたものがある。「年次有給休暇」の適用はそれにもと づくべき。年次有給休暇は時間、就労形態とは関係がない。日数も週の労働日数によっ て決まる。同様に、有給の賃金も働き方の違いで違うというのはおかしい。専任が通常 賃金なら、非常勤も同じであるべき。</p> <p>「一般非常勤」にことなる規則を設定するならば、組合員は「労働協約」があるから それでよいが、非組合員には、あらたな「就業規則」作成が必要 法に適合し、実務処理も簡便・当事者感情も考慮し、組合の要求する案にすべきでは。 すでにとっている休講・欠講の扱いについて確認したい。</p> <p>次回交渉へのもちかえり事項にしたい (1月中旬予定)</p>
専任数 講師 ランク 諸手当	<p>【専任の申請人数について】 大阪府教育委員会・日本語教育振興協会などに申請している専任の人数は現在の教務職員 専任の人数より、かなり多いがなぜか。だれが専任としてされているか教えてほしい。 経営会議にもちかえり、検討し、文書にて回答する。。</p> <p>【文書回答あり】 「氏名は公表できない」</p> <p>【諸手当の対応表】 作成まだか。 遅れている。年明け予定。 【文書回答あり】 別表</p> <p>【講師のランク付け】 来年度契約が始まる前に、提示予定。(2月中旬ころ) 検討の時間がほしいので、はやめに。</p>	

08 1月24日(木) エール学園支部会 午後5PM

会場：2号館・当日お知らせ予定

次年度講師契約・仕事の内容・法律のこと・いろいろ話し合います。

どなたでも参加自由です。ご相談・ご質問のメールでのお問い合わせも受け付けています。「困った」「わからない」「どうしよう」

と思ったら、いつでも声をかけてくださいね。

日本語教師ネット掲示板に投稿された まじめな相談

日本語教師のあなたなら、どう回答しますか？

日本語教師に転職したいのですが、不安定で低い収入を理由に両親に猛反対されています。32歳、独身。実家にいながら非常勤で公共施設に勤めています。長年の夢だった日本語教師になるため、仕事をしながら養成講座に通い、修了しました。公務員の身分のため副職を持たず、現在の仕事をやめて日本語教師になりたいのですが、上記の理由でもめ、いまの仕事を続けながらボランティアで活動することを両親は主張しています。親として心配すること、心配させてしまっていることは理解していますが、「日本語教師」を職業にしたい気持ちを無理やり押さえ込むこともできません。

一度、日本語学校の面接試験を受けたとき、初めて日本語学校の中で数時間過ごし、面接の緊張よりワクワクした気持ちの方が勝っていたこと、養成講座を受講して、十数年後に教師を養成する側に立ちたいとも思ったこと、教師の給与面、良い面もそうでない面も隠さず話しました。しかし、なぜ職業としたいのかうまく説明できません。説得できる言葉もみつかりません。

似たような経験をされた方はいらっしゃいますか。みなさんなら、どうされますか。

現役の先生方で、みなさんが日本語教師を職業にしようと思った理由、「ボランティア」ではなく、なぜ「職業」なのか、お話を聞かせてください。

この相談、講師のみなさんはどうお読みになりましたか。

これには「結論からいうと、やめたほうがいいでしょう」と回答がありました。実際の日本語学校の職場の厳しい現実を指摘し、相談者がボランティアと同様に考えているのは甘いときめつけるような内容でした。また、「理想と現実のギャップに気がつき、職場を去っていった」日本語教師のことも紹介してありました。しかし……残念ながら、回答者自身が、「なぜボランティアでなく、職業にしたのか」については答えていませんでした。この回答者が正しいなら、日本語教師には「現実」だけあって「夢」はないことになります。また、この質問者にどんな職業に限らず、仕事をやっていくのは無理だというように聞こえ、気になりました。なぜこの「職業」なのか……この人はなかなかのストレート球を投げているように思えるのですが……。わたしも同僚たちにこんなふうに聞いてみたい。おっと、その前に自分の答えは……？(笑)。

なっちゃんからのたより…… 大阪教育合同の20代の組合員に聞いてみました。

1 好きな歌は？

これというポリシーはないんですけど……。わたしは中学校の頃から、合唱をやっていて、合唱曲とか口ずさみます。最近のお気に入りの曲「Let's Search for Tomorrow」という曲で、「明日への限りない期待ふくらませて、限りない、明日への希望と夢を～」のあたりのフレーズが来ると胸いっぱいになります。自転車こぎながら、まわりに人がいないことを確かめて、口ずさみながらこいでます。

2 いま、一番望むことは？ う～ん、若い人とつながること

今、わたしの周りには、若い人がほとんどいません。若い人の問題に取り組んでいるのに、これほど残念なことは無いとっていて、ある意味、危機的な状況なんじゃないかなとも、思ってます。若い人とは共感できる、共通することがたくさんあると確信があるんだけど、今はバラバラになっているような気がします。自分と同世代やちょっと上やちょっとしたも含めて、この世の中に対して思っていること、感じている生きづらさや悩みなどを共有できたらといいのになって思います。つながっていけば、もっともっと世の中がかわっていくのになって。

3 教師という仕事をなぜ選んだの？

教員採用試験の面接みたいですねえ～。でも本音のところで、思いつくままに。

- 1 一生働ける。(結婚しても、子供を生んでも働けるみたいな意味) 見込み違いだったかも。
- 2 女でも男と同等に仕事ができる。 全然違う。現場にいると女だということ損すること一杯。
- 3 お給料が世間の同世代同学歴の人と比べて、少しは良い。
学校の教員は残業代がつかない。労働量と比べると、超安月給だと思ってます。
- 4 教育実習で、本気で感動した。子供の純粋な目にひとめぼれ。
これがあるから、裁判してるんですね、わたしは。
- 5 社会的ステータスがある。 ここ数年で、教員のステータスはこれでもかというくらい地に落ちました。
- 6 誇りを持って働ける。 職業に貴賤はない。今思うと、かなりうがった考えで、傲慢だなあと。いまは人が働くということは、職業の別にかかわらず、とても尊い行為だと思います。

新任免職裁判をたたかうなっちゃんの素顔

なっちゃんは、教員としての職場復帰をめざし、すでに2年越しの裁判をしています。「新任免職」というのは、簡単にいえば、1年間の見習い期間の予定で教員になったものの、その1年間を終えたところで、次年度の正式採用を打ち切られたことをさします。わたしからみれば、ほっそりしてかわいらしく言葉はちょっとタメ口、感受性の強そうな今風の女の子でした。でも、なかなか芯のある、自分のことばで立つひとでした。ふ～ん、裁判ってけっこうしんどいの、なぜだろう。話していると、学級崩壊状態のクラスをもち、体当たりで取り組んだようすが伝わってきました。昨年の地裁の結審では、残念ながら棄却されてしまいました。それでも、めげずに彼女は「もう一度、あの子たちに出会いたい」と裁判を続ける勇気を奮い起こしました。すごいことだと思います。日本語教師も学校の教師も使命とマインドはおんなじなんじゃないかなあって思います。みなさんも、こんななっちゃんを応援してください。